

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472200575
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
	認知症高齢者グループホームふれあい
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡川崎町大字川内字河原前5-3 (電話)0224-84-4820
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 11 月 11 日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 25 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 7.5人 非常勤 0人 常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独		○新築/改築	
建物構造	軽量鉄骨	○木造	造り	
	1階建て		1階	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1000	円	

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.8歳	最低 70歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

	国民健康保険	川崎病院
--	--------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川崎町の市街地の郊外に介護関連施設や多目的交流ホールが集まった同法人の「川崎ドリーム」の中に「ふれあい」はある。木をふんだんに使っており、居室のスペースも広く、全体にゆったりとした造りになっている。今年度より家族会を発足させ、年二回家族会を開き、職員もできるだけ多く出席して、家族から意見、要望、日頃疑問に思っている事、不安などを聞く機会を設け、活発な意見交換を行い、家族と職員間の想いの共有がなされている。家族と事業所の距離が縮まり、「ふれあいは家族のようだ」との言葉も聴かれた。地域との交流は活発になっているが、まだ、近隣の住民の方に受け入れられているとは言えないので、認知症やグループホームを理解してもらえるように更に努力していくと管理者は話している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①地域との関係性をうたった理念の構築:全体会議で職員と話し合い「地域住民と共に暮らせる環境づくりに努めます」を作り上げ、地域と協力して認知症ケアに取り組んでいる。②運営推進会議への家族の参加:今年度から参加が実現した。③職員異動による入居者のダメージへの配慮:職員の異動、離職が多く改善が進んでいない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に自己評価票を渡し、職員に記入してもらいユニット毎二人の代表と主任がまとめ、更に管理者が取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	二ヶ月に一度開催している。事業所側から、入居者の入退去の状況や行事の説明、報告、外部評価が行われることの説明などを行っている。話し合いの中から交通量の多い事業所前の道路に横断歩道の設置を要請することを決め、行政区長の協力で実現した。また、野菜作りの話題などから地域の方から野菜が届けられたりして、交流が進んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が年二回開かれ、家族から意見、要望を聞いている他、面会時に聴き取るようにしている。また直接意見を伝えてくる方もいる。寄せられた意見、要望については、対策や改善策を講じ、その結果を家族に確認している。事業所に苦情相談箱を設置している他、意見相談窓口、公の機関の相談窓口を重要事項説明書に明記し、第三者委員を委嘱している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者の方達が地区の互助会の「井戸端会議」に参加し、また近くの保育園の運動会に出かけたり、中学生や高校生のボランティアを受け入れなどしているが、日常の散歩の折などに、近隣の住民の方に受け入れられているとは言えないと感じるので認知症や当ホームを理解してもらえるよう更に努力して行くとしている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全体会議で職員と話し合い、事業所独自の理念として「地域の住民と共に暮らせる環境作りに努めます」を作りあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念の唱和を行い、職員間の共有を確認している。運営推進会議の場で理念の説明をし、入居者が地区の互助会の「井戸端会議」に出席したり、中学生や高校生のボランティアを受け入れたりして、地域と交流を広げる努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの保育所の運動会や中学生との夏祭りを通じた交流をしている。また、事業所のためだけでなく、地域のためにも横断歩道の設置を要請して実現したことなど、認知症やホームへの理解を得るための努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義や目的については全体会議や家族会、運営推進会議で伝え、評価結果についてはミーティング、全体会議で報告し、改善に向け検討しているが、改善シートや改善計画書等は特に作成されていない。	○	職員が自己評価した結果、気付きや課題とされた項目を日々の介護に活かすために、具体的な改善計画をたてて実行していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より家族代表も参加して、二ヶ月毎に会議を開いている。事業所から入居者の状況や、外部評価の説明、家族会の話し合いの報告等がされた。地域メンバーからは野菜提供の申し出等もあった。また、話し合いの中から横断歩道の設置の必要性が出て、行政区長の協力で設置が実現した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	川崎町の担当部署とは緊密に連絡を取り合い、運営上やサービスの課題について相談できる体制ができています。管理者が町主催の「家族のための認知症介護教室」の講師を務めた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付時に、一人ひとりのケース記録、金銭管理についての報告、行事のお知らせ、職員の異動等書面で伝えている。また、月に一度広報誌「グループホームふれあい」を送っている。		
8		○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置しているほか、面会時に意見等聞いているし、また、家族会の話し合いの中でも意見を聴いている。事業所に意見相談窓口を設け、公の機関の相談窓口のあること、第三者委員を委嘱していることを重要事項説明書に明記し説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年からの異動、離職の職員が多い。新人職員が馴染むまで、入居者のダメージを軽減するため、シフトを工夫し、常に職員が傍らにいて、入居者への声かけを多くするようにしているが、心配している入居者もおられる。	○	退職の理由は職員の希望が多いとのことであるが、介護者が頻繁に変わることで入居者が受けるダメージは大きいと思われる。入居者が安心して暮らせるよう、法人の運営者の方は異動、離職を少なくする対策を講じていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、年平均二、三回は外部研修を受けている。町の認知症介護教室などに積極的に参加したり、外部から講師を招き認知症に関する研修会を開いている。研修内容は全体会議の場で報告され、職員間で共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上を目指して同業者同士の相互評価をしている。県グループホーム協議会に参加し、南ブロックの研修会や交流会に積極的に参加しており、管理者は勉強もさることながら、職員が交流を通して友達作りや楽しみを見つけしてほしいと話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学していただいたり、職員が自宅を訪問して顔見知りになるようにしている。入居開始時には、家族に頻りに訪問していただき入居者に安心感を持ってもらうようにしている。体験宿泊も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は職員にとっては人生の大先輩であることを認識し、言葉かけやプライバシーに配慮して、敬意をもって接している。入居者の方から畑の作り方や昔の生活体験、野菜の食べ方などを教わっている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中や一緒に家事をしている時、居室に伺った時などにふと漏らす言葉を聴き取るようにしている。しぐさや表情でその時の気持ちが伝わってくることもある。表出が困難な方の場合には家族に聞いたり、他の職員と話し合っ、想いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望、意見を取り入れ、フロア会議、全体会議の場で職員と話し合い、介護計画書を作成している。訪問診療の医師、支援を受けている同法人施設の看護師の意見も取り入れている。計画書について家族に説明し、話し合っって同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをしているが、本人の状態変化があった時は本人、家族と話し合い随時見直しも行っている。見直し後の計画書についても家族に説明し、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は家族の対応が原則であるが、希望があれば事業所でも対応する。また、必要があると思われる時は家族の了解を得て管理者が同行する事もある。隣接の施設から看護師の支援があるほか、ベッド、エアマット、車椅子等を借りる事ができ、ホームでの生活が維持できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に診療を受けている方は三人いる。近くの病院が月一回の訪問診療と随時往診の対応をしてくれるので、本人はもとより、家族、職員は安心感を持っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、かかりつけ医、職員とで入居者が重度化した場合に事業所としてできること、できないことの指針を共有しているが、重度化の「介護方針」や「意思確認書」は作られていない。	○	医師との協力体制はできているので、本人が重度化に至った時の支援の具体的な内容を盛り込んだ介護の「方針」と「意思確認書」を文書化して重要事項説明書に明記していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への呼びかけは名前である。職員の入居者のプライバシーを損ねるような言葉かけや態度はみられない。方言を好まれる方にはその様に対応している。個人記録などは、目隠しの付いた鍵のかかる戸棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを守り支援する姿勢である。夜中に目覚める方にも無理に寝ていただくような事はせず、一緒に話をしたり、昼間居室で過ごすのが好きな方には見守りながらの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
調理の手伝い、はい					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳の準備などできる方にはしていただいている。入居者と職員と一緒に食卓を囲み、話しながらの楽しそうな食事風景であった。職員は穏やかな態度で入居者をサポートしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる態勢である。重度化している方が増えてきているので、人手のある日中に入浴していただいている。入浴を拒む方へは言葉かけの工夫や、本人のこだわりを和らげる工夫などで入っていただいている。家族の支援を仰ぐ事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	複雑なナブキンたたみをする方や、洗濯物をたたみながら持ち主毎に仕分ける方など、できることは積極的にしていただいている。誕生会には家族を招待して、本人の好きなメニューを楽しんだり、季節ごとの行事や遠出の外出も多く取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩やドライブ、食事や映画を見に行くこともある。希望に合わせて戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。外出傾向のある方には、後ろからついて行くなどして、見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動通報システムを導入し、夜間でも地域住民や消防団の協力が得られるようになっている。防災訓練は年2回行われている。入居者一人ひとりのリュックに防災用品を入れ、非常時にすぐに持ち出せるようにしている。防災訓練には地域の方の協力もお願いしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士である管理者が献立をたてている。医師の指示でカロリー制限のある入居者にも対応している他、ミキサー食など形状や盛り付けに配慮して食事提供している。水分摂取、摂食量とも個別に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の共用空間はどこも臭気や空気のよどみは感じられない。食堂には職員による季節の花が生けられており、畳敷きの和室のコタツで横になってくつろぐ入居者もいる。廊下の片隅のソファなどで自由に過ごせる場所があちこちにある。食堂の採光が良く、眩しい時間帯があるのでカーテンの設置を考慮中である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と職員の協力で、使い慣れた家具や日用品、仏壇などが持ち込まれ、また、壁飾りや置物などにその人らしく暮らせるように配慮されていることが感じられる。		